

令和3年度（第23回）「瀬戸山賞」受賞者

1 更生保護に関する学術的研究、広報宣伝又は先駆的・開拓的な活動において特に優れた功績のあった個人または団体

受賞者（敬称略）	功績の概要
中澤 照子 （東京都）	長く保護司として保護観察対象者の改善更生に努められ、また、「更生カレー」と広く呼ばれるまでに発展した地域での居場所づくり活動など、包摂性のある地域社会づくりに貢献されました。

2 他の範とすべき顕著な功績のあった保護司組織・保護司・更生保護法人・同法人役員・更生保護女性会・同会員・BBS会・同会員・協力雇用主会・同会員

受賞者（敬称略）	功績の概要
気仙沼地区保護司会 （宮城県）	東日本大震災の発生で混乱する中、地域社会における更生保護活動の重要さに思いを致して、活動の早期再開に会員一同で取り組みました。その後も官民協働の下に、地域の絆づくりに努められ、保護司会として模範となりました。
台東区保護司会 （東京都）	“社会を明るくする運動”の一環として、長く東京藝術大学と協働したワークショップを開催され、地域社会と更生保護の交流に先駆的な活動形態を盛り込むなど、広報活動の進展に寄与されました。
長崎県更生保護女性連盟 （長崎県）	女性ボランティア団体の草分けとして長年活動に邁進され、近年は県下の女性諸団体とのネットワーク「子どもを守る 長崎ひまわりプロジェクト」を立ち上げて様々な連携事業を実施し、地域の安全・安心に寄与されました。
早稲田大学広域BBS会 （東京都）	複数大学の学生による学域BBS会を組織し、「ともだち活動」や、地域の団体、海外の若者と連携し多様な活動を展開されました。